



HOPPY team TSUCHIYA

レース結果報告書

2024SUPER GT Rd.1 岡山国際サーキット

日時	2024年4月13-14日	■車両名	HOPPY Schatz GR Supra GT
■場所	岡山国際サーキット	■ゼッケン	25
■監督	土屋 武士	■ドライバー	菅波冬悟／松井孝允
■チーム	HOPPY team TSUCHIYA	■リザルト	予選 19位／決勝 14位

出来ることから着実に

復活の一步を踏み出した岡山戦

4月13、14日、岡山国際サーキットにおいて、2024年SUPER GTシリーズが開幕。昨シーズンは第4戦でのアクシデントにより、残りのレース参戦を見送っていたNo.25 HOPPY Schatz GR Supraだが、復活レースを迎えた初戦では、予選19位からスタートを切り、着実な走りに徹して14位チェッカー。次なるステージに向けてまた一步前進している。

みなさん、いかがお過ごしですか？ ホピ子です。ようやくご挨拶することができました。去年の夏、まさかのアクシデントでみなさんの前から急に姿を消すことになってしまい、その節はご迷惑とご心配をおかけしました。暫くの間、武士監督そしてチームのみんなは、今後のレース活動のことを考えられないほど茫然自失状態となってしまったけれど、根っからの”レース屋”であるみんなは、再び前を向いて前に進むことを決めました。「ホピ子を復活させる！」と。暗闇の中から見えた灯りを信じて一步を踏み出すと、不思議なことに、ひとり、またひとりと”仲間”が増え、2023年9月18日にはプロジェクトがスタート。支援してくださったみなさんは、時折武士監督やホピ子復活プロジェクト事務局員から届く製作日記を目にし、その進捗を見守ってくれたんですね。差し伸べてくれた手と手が繋がり、大きなパワーをもらうようにして、ホピ子は再びレースの場へと戻ることができました。もう、本当に感謝しかありません！ あらためてこの場でお礼申し上げます。

こうして、みなさんの力を得て現場復帰を果たしたホピ子。復活後、富士スピードウェイ以外のサーキットに初めてやってきました。岡山国際サーキットでは公式テストもあったけど、スケジュールが間に合わなくてお休みしたんです。1年ぶりの岡山で、公式車検を受けに行っている間、ピットには次から次、いろんな方が来てくれたようです。武士監督から聞いたら、「おかえり」「ありがとう」って言ってくれたそうで……そのひと言ひと言が沁み入りました。待っててくれたみなさんの前で、恥ずかしい戦いはできないなって気を引き締めたホピ子でした。

そうそう、職人氣質（っていうか、職人そのもの！：笑）のチームスタッフが一つ一つ丁寧に修復作業を行ない、装いも新たに変わった!? ホピ子。どうやら、今の私のことを”ホピ子 Ver.2.5”というのだそう。2代目ホピ子がすこぶる大掛かりな修復を行なったので、2.5となったわけです。でも、いちいちそう呼んでられないので、以前のように”ホピ子”と呼んでもらえると嬉しいです！ 2月24日にシート合わせをしたのは、菅波冬悟くん、松井孝允くん、そして佐藤公哉くん。お馴染みの3選手ですが、孝允くんと公哉くんのふたりは”おかえりなさい”ですね。今シーズンは、冬悟くんと孝允くんがメインとなり、公哉くんは第3ドライバーです。このトリオ

のコンビネーションなら、武士監督はもちろん、チームスタッフもそしてホピ子もなんら心配してないし、きっとチームを盛り立ててくれることでしょう。

ガッツリ”モノ作り”の現場と化していたチームのガレージは、ほんと連日作業が続き、もっと時間が欲しい～というみんなの魂の叫びが聞こえるほどだったんです。そんなこんなでまだ走れる状態でなかったホピ子は、岡山の公式テストをお休みしちゃいましたが、3月23、24日に行なわれた富士のテストは無事に参加。トータル6週の走行なので、”転がした”っていう言葉の方がしっくりするけど、それでもシェイクダウンしたことには違いない！ 衝撃の”あの日”から228日ぶりにサーキットに戻った日にもなりました。みんな、本当にお疲れ様。そして感謝です。Ver.2.5のホピ子として、新たな歴史を刻んでいこうと誓った日でもありました。

さあ、いよいよ開幕戦の岡山です。搬入日から春の陽気に包まれて、というかも初夏みたいな好天気！ ホピ子の次なる門出を祝ってくれてるのかなあ、なんて思うほどでした。搬入日に続き、予選日も朝から青空が広がりました。午前9時30分からの公式練習を前に、ファンのみなさんが自由にピットを歩くことができるオープンピットがあったんですが、一番最終コーナー寄りにあるピットなので、自然に足を止めてホピ子を見てくれるんですよ。とってもキレイに”化粧直し”してもらって良かったって思いました（笑）

公式練習では、まず冬悟くんがコースイン。孝允くんと交代しつつ各部を確認。富士での公式テスト以来の走行だけど、GT300クラス専有走行含め、30周余りを走り終えたのでした。ひとまず大きなトラブルもなく、周回を重ねられたことでももちろんホピ子自身もホッとしたけど、冬悟くんや孝允くんに、もっともっと走って欲しいっていう気持ちも強くなりました。もちろん、今ここで欲張るのは良くないとわかってるから、無理は厳禁！ やることに優先順位をつけてやっていかなきゃ、って自分に言い聞かせました。

次は予選です。ちなみに、今シーズンからレギュレーションが改定されたので、やり方が変わりました。Q1、Q2の両セッションで各ドライバーがタイムアタックを行なった上、その各タイムを合算する方式が導入されたんです。タイムに関係なく、両セッションで各ドライバーがアタックできるようになったというわけですね。でもその一方で、決勝スタートまでに装着できるタイヤはたった1セットになったんです！ 持ち込めるタイヤセット数が昨シーズンよりさらに1セット減ったことに合わせ、このルールになったんだとか。あらゆる状況でいかにタイヤをうまく使うか、そこが難しくもあるけど、チームとしてどういう戦略を採るかもポイントになりそう。今回は、Q1・A組のセッションで冬悟くんがコースイン・1分27秒632をマークして8位に入りました。続くQ2は、Q1の2組から上位各8台ずつ、計16台が出走するグループ1で孝允くんがアタックしました。1分27秒360のタイムは14位。ふたりのタイムを合算した結果、19番手から決勝スタートを切ることになりました。走っておいで！ と送り出されたホピ子としては、もう無我夢中というか、必死というか……。考えたら、ホピ子もこれまで以上に忙しい予選になって大変！ でも、冬悟くん、孝允くんのふたりと予選が走れてもちろん嬉しかったですよ。

Q1を走った冬悟くんによると、「今まで使ったことがない初めてのタイヤでアタックしました。予想以上に気温、路面温度が高くなったので、十分にパフォーマンスが出なかったんです」とのこと。クルマかタイヤ、そのどちらに原因があるかを突き詰めないといけない、って。ただ、この岡山戦は「ひとつでもいい順位で、というよりもまずは確実にチェッカーを受ける」のが一番のミッションなので、そこを存分に理解したうえで決勝に臨むと約束してくれました。

「クルマが転がって嬉しいけど、次は結果を出さないと。みんなが頑張ってくれているので、僕として走って

返すしかないと思っています。岡山は合同テストにもこれなかったんですが、その中でも今日のセッションではセットアップも進んだし、どうやればいいかもつかめてます」というのは、孝允くん。去年は他チームでレースをしていたこともあり、学んできたことが今すごく活かしていると笑顔を見せてました。チームやホピ子としばらく距離を置いたことで見えたもの、気付いたことがたくさんあったみたい。ドライバーとして成長したんだな、とホピ子もしみじみ思いました。頼り甲斐のあるドライバーふたりと、またこうやってレースができる嬉しさを存分に味わった予選日になりました。

決勝日の岡山もすばらしい天気恵まれました。サーキットへ来る道中、あちこちできれいな桜を見ることもできたし。季節感たっぷりの開幕イベントになったと思いませんか？ ホピ子もだいぶん”レース感”みたいなものを取り戻せたと思うし、まる2日間ドライコンディションで走れたので、このデータはこれからのレースにしっかり反映できるはずですよ。

オープニングセレモニーやらスタート進行やら、決戦を前にイヤでもテンションが上がっていくから、ホピ子もその熱気にちゃっかり乗っかっちゃって……（笑）でもそこは、チームのみんなが、「落ち着いて戦うんだよ」とうまく”調教”してくれたので、少しは冷静になってスタートが切れたかと。さすがに冬悟くんは落ち着いてて、オープニングラップからセーフティカーが導入する波乱の幕開けになったのも意に介さず、”ホピ子のレース”に特化した走りに集中してくれました。

ルーティンのピットインは32周終わりに実施。開始から1時間少し過ぎたタイミングでした。今シーズンは予選日の公式練習から決勝スタートまで同じ1セットのタイヤで走ることにになったから、ピットではタイヤ交換と給油作業を行ない、孝允くんにステアリングを委ねました。当然、結果的には孝允くんのほうがたくさん走ることになったわけですが、タイヤにやさしく、ホピ子の様子も伺いながら、チェッカーを受けるんだ！ という強い気持ちで一緒に走ってくれました。こうして、概ね2時間にわたる300kmレースを無事に走破！ ホピ子は予選より順位を上げて14位でゴール。10位以内に入って入賞できればもっと良かったけれど、でもこれまでの道のり……武士監督が真っ暗闇の中から、なんとか灯りを探し出してこの場所まで導いてくれたことを思うと、感謝してもしきれない思いが溢れてきたんです。サーキットを走らせてくれた武士監督、チームのみんな、冬悟くん、孝允くん、レースウィーク中は公哉くんもたくさんサポートしてくれましたね。みんなお疲れ様でした。そして、温かく見守ってくれたサポーターのみなさん、本当にありがとうございました。

ゴールしたことでまずは第一関門を突破できたのかな？ もちろんレースなのでもっと上を目指していかなくてはなりません。ステップ・バイ・ステップ。一足飛びなんてせず、きちんとやり遂げ、結果を積み上げていく。それがお世話になったみなさんへの恩返しであり、ホピ子に与えられたミッションだと思っています。さあ、次は戦いの場を富士スピードウェイに移して3時間の戦いが待ち受けます。しっかり前を向いて歩いて、いや走っていきますね。これからもどうぞよろしくお願いします！

■レースを終えて

【菅波 冬悟】

まず、開幕戦にこうして参戦できたのは、ホピ子復活プロジェクトにご協力していただいた皆様のおかげです。本当にありがとうございました！

今回のレースは我々としても久しぶりの復帰戦でしたが、14位で無事にチェッカーを受けることができて良か

ったです。まずは完走することができ、それにより次のパフォーマンスを上げていって結果を残すというステップに進むことができたと思っています。

これから毎戦ごとにホピ子は進化していくと思いますので、自分はそれを追い越す勢いで成長できるように引き続き頑張ります！

【松井 孝允】

復活に携わってくださった皆様のおかげで戻ってくることができ、開幕戦を無事に完走する事ができました。ありがとうございました！

岡山の合同テストに参加はできなかったのですが、参加した富士の合同テストの結果を踏まえ開幕戦に乗り込み、セッションごとにセットアップを進めていって一步も後退することなくレースウィークが進みました。チームの進化も感じたし、また、菅波選手と一緒に戦えるのも心強いと感じたレースウィークでした。

次戦富士に向けてもチームとさらにレベルアップして挑みます。たくさんの応援をありがとうございました！

【土屋 武士監督】

こんなにも早くサーキットに、レースに戻ってこれるなんて…、本当に信じられない気持ちです。今こうやって開幕戦を無事に終え、何気ない日常の時間が過ぎていることすら現実なのか不安になるくらい、ここまでの数年間、怒涛の時間を我々は過ごしてきたということだと思います。この間、支えてくださった皆様、本当にありがとうございました。皆様の想いと共にこの場に戻ってこれたことに感謝いたします。

レースは非常にポジティブに終えることができました。まだまだ生まれたばかりの新生ホピ子ですが、ポテンシャルがあることをチームのみんなが感じることができ、特にレース後のドライバーの表情が明るかったことがそれを物語っていました。そしてドライバーの二人のコンビネーションもバッチリで、復帰した孝允の成長は、チームのモチベーションを上げてくれましたし、チーム2年目の冬悟も相変わらずのムードメーカーであり頼もしい存在で、走行時間が少ない中でもこの二人に任せておけば大丈夫だなと、チームがいいリズムで再始動したことを感じました。リザーブの公哉も裏方でサポートをしてくれて、チーム全体が一つにまとまっていい雰囲気を感じることができた開幕戦でした。

とにかく今年は“最後まで無事に”ということが最大のミッションです。もちろん上位を目指して戦っていきませんが、「続けられることが当たり前ではない」ということが刻まれた今は、とにかく生き残ることを最優先に、そして進化と成長を積み重ねていき、“優勝”という次の目的地にたどり着きたいと思っています。

今年も始まりました。11月の茂木最終戦で、「今年はよかったね」と皆様と一緒に喜べるように、一つ一つ丁寧に、日々を積み重ねていきたいと思っています。どうぞ最後まで応援のほど、よろしく願いいたします！！

【問い合わせ先】

つちやエンジニアリング合同会社

〒252-0822 神奈川県藤沢市葛原2507

TEL : 0466-49-5010 FAX : 0466-49-5011

担当： 土屋・佐々木